

創立50周年記念論集発刊によせて

高崎経済大学学長 吉 田 俊 幸

高崎経済大学は、昭和32年に、経済学部経済学科を開設し、大学としてのスタートしました。本年は、節目である創立50周年を迎えました。

高崎経済大学の50年は、量的な拡大だけではなく、教育・研究の面の質的な充実の歴史でもあります。創立時は1学部1学科、定員200名でしたが、現在では2学部5学科（経済学部経済学科、経営学科、地域政策学部地域政策学科、地域づくり学科、観光政策学科）、2研究科（大学院地域政策研究科、大学院経済・経営研究科）をもつ社会科学系の拠点大学として発展しました。また、学生定員も両学部を合わせて約1000人体制となり、今日にいたっています。

また、平成15年度に「学部理念を基礎とした地域社会の連携」、平成16年度に「地域づくりへの学生参加プロジェクト」、平成17年度に「新地場産業の創出と参加型学生教育」が、それぞれ特色GP、現代GPに採択されました。また、SIFE国内大会で17、18年の2年連続優勝しました。これらは、高崎経済大学の「少人数精鋭教育」や「自由な学風」及び「地域貢献」等の教育が高く評価されたものであり、また、その成果の表れであります。

6月26日に創立50周年記念式典を盛大なうちに取り行ない、次の50年に向けて新たな第一歩を踏み出すとともに決意を新たにしたところであります。

50年前と比べると、大学をめぐる諸環境や大学に対する社会的ニーズも大きく変化しています。18才以下の人口が減少する一方4年生大学は2001年から2006年の間に全国で168校が増えています。そのため、大学間の教育・研究面での競争が激化しています。この厳しい競争時代を乗り切るためには、市立大学としての特色ある教育・研究目標を明確にし、個性豊かな大学づくりを目指す必要があります。

そのためには、第一に、研究体制の強化と研究支援体制の改善を通じて研究面での質的な向上を実現することです。大きな時代の変革期にある現在、基礎研究とともに時代のニーズに沿った研究面での充実が必要です。同時に、国際化に対応して、姉妹校等との研究交流をさらに発展させ、教員、大学院生の相互派遣を組織的に進めることが求められています。

第二は、教育体制の強化と学生・環境の改善と整備です。そのためには、本

学の特徴である少人数精鋭教育や自由な学風をさらに発展させることです。また、学生の豊かな大学生活を遅れる環境づくり（たとえば学生ラウンジや食堂サークル活動の支援等）を整備することも重要です。また、学生の日頃の悩み等を適格に解決できるようなカウンセリングや学生相談等の取り組みを一層強化する必要があります。

第三は、地域貢献と地域連携を推進するとともに地域にひらかれた大学を目指すことです。そのために、県、市町村（高崎市、草津町等）、企業等との調査・研究・事業連携の包括連携協定を前向きに組み、現状の取り組みをさらに発展させることが必要です。また、高崎市は、2度の合併を経て、群馬県第一の都市に発展しました。したがって、新高崎市の知の拠点として、新高崎市の地域振興、地域づくりに積極的に参加し、貢献することが求められています。

第四は、近隣の大学、研究所さらには多くの大学とのネットワークを進めることです。公立3大学との連携に加え、群馬大学等や政策研究大学院大学等との連携を推進することによって、時代のニーズにあった、教育、研究のネットワークづくりを目指す必要があります。

第五は、2学部2研究科という大学に呼応したマネジメント体制を構築することです。組織改革を通じて、教員の負担を軽減し、全ての大学構成員が大学の基本的使命である教育、研究、地域貢献に集中できるような体制をつくることであります。

創立した昭和32年は、高度経済成長への道をまさに進もうとする時代でした。現在は、グローバル化経済が進展する一方、そのもとで生じる格差の是正や持続可能な経済社会システムが模索されている時代です。だが、これらの課題については、模索の時代であり、一步一步着実に成果を挙げる以外に方法はありません。今後、本学会誌の役割と意義がますます重要になると思います。

最後に、高崎経済大学50年の主要な歴史は、経済学部の歴史であり、また、学術研究の面では、高崎経済大学経済学会の歴史でもあります。50周年記念誌の刊行を心から祝福し、今後、ますます充実・発展させることを祈念いたします。同時に、出版の労を取られた学会長始め関係各位にこころから感謝申し上げます。次第であります。